令和4年度　ふくしまの未来をひらく読書の力プロジェクト

読書活動支援者育成事業研修会

令和４年６月２１日（火）郡山市労働福祉会館中ホール　参加者　６３名

実践発表　「子どもの想像力を培い、豊かな心を育む読書センターとしての学校図書館」

郡山市立開成小学校　学校司書　仲澤沙也果　氏

- 通年で取り組む活動として、読書奨励賞や学年ごとの推薦図書を設定している。
- 「エッグハント」や「くじびき」、「ハロウィンをさがせ！！」など、月ごとにイベントを企画したり、図書館だよりを発行したりして、子供たちの足が図書館に向くようにしている。
- 書架の配置や新刊の掲示を工夫したり、公共図書館や保護者の読み聞かせボランティアと連携したりして、子供たちに本を身近に感じてもらえるように工夫している。

参加者の声

- 500～600 人規模の児童数に対する図書活動に素晴らしいと感じました。ネット環境に依存され、本離れが進む今、イベントを活用し、図書室に足を向かせる工夫がとてもよかったです。参考にさせていただきたいと思いました。
- 各学校には、本と図書館が間違いなくあります。でもあるだけではやっぱりだめなのだと…。子供たちと本の架け橋が司書なのだと感じ、大切さがわかりました。

実技発表　「多様な手法を用いた、聞く人を惹きつける読み聞かせの実践」

石川読み聞かせの会　代表　冨岡ケイ子　氏　他

- ２４年の歴史を持つ会で、エプロンシアターや大型絵本、キーボードや琴の演奏と組み合わせた読み聞かせなど、聞く人を惹きつける読み聞かせをモットーに、男性１名を含む１４名で活動している。
- 毎月定例会を開いて活動内容を確認したり、本の選定や研修、資料開発などを行ったりしている。
- 石川町内の小学校、町図書館や放課後子ども教室で定期的に読み聞かせを行っている。また、年に１回、子供から大人までを対象とした「親子で楽しむ読み聞かせ会」を実施し、町内外から多くの方が参加している。

参加者の声

- 男性も含めた複数による読み聞かせは、深みが出て良いと感じました。読み聞かせに多様な手法があることを学ぶことができました。
- 大型絵本を数人で役割しての読み方や、琴を使った「花さき山」は、絵と話が一体となって、本当に引き込まれる手法でした。読み聞かせをしている私にとって、子供たちが次の読み聞かせが待ち遠しくなるような工夫をしたいと感じた時間でした。

講演　「朗読は読むのではなく『伝える』もの」
福島テレビ報道部アナウンサー　坂井有生　氏

- 報道記者として採用されてから、アナウンサーとして活動する現在に至った経緯について。
- 英語は「強弱」で表現することが多いが、日本語は「声の高低」で表現することが多い。加えて「緩急」や「間」を使って相手に伝えている。
- 朗読は伝え手と聞き手がいる。伝え手が聞き手にしっかりと伝わるように読むことが大切である。すなわち、朗読は“伝える＝コミュニケーション”である。
- 『探訪 ローカル番組の作り手たち（隈元信一著）』より、東日本大震災から１０年を迎えた宮城県、福島県で、報道に携わる方々の取り組みについての一節を朗読していただいた。

参加者の声

- 読み方によりこんなにも感情の伝わり方が違うのを体験でき、今後に活かしたいと思いました。
- 朗読で聞き手に伝えるための手段を知ることができました。正解はないのだからこそ、映像を思い浮かべながら何度も読み込み、声のトーンを変えたり、間をとったりしながら自分なりの話し方で相手に届くようにしていきたいと思いました。
- “伝える＝コミュニケーション”として朗読する。間をおそれず、自分の伝えたいことを、場を想像しながら伝える。朗読の仕方、詳しく分かりやすくとても良かったです。

開成小学校の実践発表

石川読み聞かせの会のみなさん

石川読み聞かせの会の方が作成したペープサート等の展示

坂井有生氏の講演

県立図書館所有の震災関連本の展示

情報交換の様子

【研修会全体を通して】

- 大変参考になりました。今後の読書活動支援に活かしていきたいと思います。
- お話ボランティアの方は、支援学級の子供たちへの読み聞かせなど行う際に、本の選択に苦慮していることを聞き、私も少しでもお役に立てればと思いました。
- 同じ目的を持って活動している方と交流できる研修会は、とても刺激になります。
- 様々な分野の発表や講演を聞けてとても良かったです。情報交換では、普段は話す機会がほとんどないので読書活動推進のためにも大変貴重な時間でした。次回も楽しみにしています。